1月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／1月15日㈭　15時から　◆場所／第2委員会室（自由に傍聴できます）
◆問い合わせ／教育振興課 総務係　☎0952−75−8022

教育委員会だより

「多久から発信！SDGs㊿」

〝今、ぼくたちに出来ること〟

「ふだんの　くらしの　しあわせ」これは、ぼくたち五年生が学習している福祉の合言葉です。どんな人も幸せにくらせる「共生」を目指して、いろんな福祉体験をしました。

まず、にんぷ体験では、にんぷさんのお腹の重さを体験し、動きづらさや寝返りのしにくさにびっくりしました。次に、高齢者体験では、おじいちゃん、おばあちゃんの腰のいたみや手足の動かしにくさを体験し、階段の上り下りのつらさや生活のしにくさが想像以上でした。

今、ぼくたちに出来ること。それは、にもつを持ってあげたり、声をかけてあげたりすることです。そういう小さなことでも一人ひとりが心がければ、誰もが幸せにくらせる社会をつくることができると思います。

3 すべての人に健康と福祉を

東原庠舎中央校 5年1組
水町 新 松尾龍之介

連載

多久市の指定文化財（10）

ー皇塔ー［多久市史跡］

南多久町大字下多久五五八九番地

桐野山妙覚寺は、天平年中（729〜749）に僧行基によって創建されたと伝えられます。妙覚寺が所在する桐野山東の麓に大小数十基の五輪塔群があり、そのうち3基の大きな五輪塔が皇塔と呼ばれています。多久家由緒書の中に「此地、聖武、桓武、平城の三帝（天皇）の勅願寺、故に山内に三帝の御石塔あり、又、此所の山名を皇塔と唱える」とあり、また妙覚寺の伝承によると、開山行基が同寺で国家昇平を祈祷したので、勅命により堂宇が建立され、関係の聖武、桓武、平城の三天皇が祭祀されたといいます。

五輪塔は、供養塔や墓石として平安末から鎌倉時代に国内に広まったもので、起源は仏教教義における世界を「空・風・火・水・地」が構成するという五大（五輪）の思想から、五大を表す形状に造られた石材が積み上げられています。皇塔は鎌倉末〜室町時代初期の形態がみられ、市内の石造物の中でも古いものの一つです。妙覚寺の歴史の古さを示す石造物群として、昭和55年に史跡指定されています。

（教育振興課）

▶皇塔

▶現在の妙覚寺本堂

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆今年のこと　過去の闇へと送りつつ
越年の鐘　心して聴く
川浪　信子

◆まだ生きる　私のために　求めたる
和室のソファー　座りよきかな
尾形　節子

◆歳重ね　散歩するにも　足腰が
痛いと言いつつ　歩ける幸せ
梶原恵美子

◆この星に　僕は生まれた　ありがとう
そしてあなたと　遂に出会った
野崎　隆幸

◆ひる休み　級友と歌いし「学生時代」
老いて合唱いて　昔へ旅する
浦野　嘉恵

俳句《大石ひろ女選》

◆潮騒を　遠くに聴いて　神の旅
富樫　明美

◆富有柿　夕日の色に　溶けこみて
大谷　和子

◆はらはらと　夜目にも銀杏　散りにけり
武富　律子

◆柿の皮　干したる母の　昭和かな
本村　則子

◆一面に　風のさまよふ　大枯野
大石ひろ女

川柳《多久川柳会 互選》

◆嬉しさも　悲しさも有り　除夜の鐘
西山　残月

◆歳暮手に　これで今年の　義理がすみ
田代えみこ

◆難聴でも　嬉しい話　聞こえます
井上　東子

◆神から願い　少し減らせと　お告げくる
大谷　和子

◆胃袋で　効き目競って　いる薬
田代まつこ